

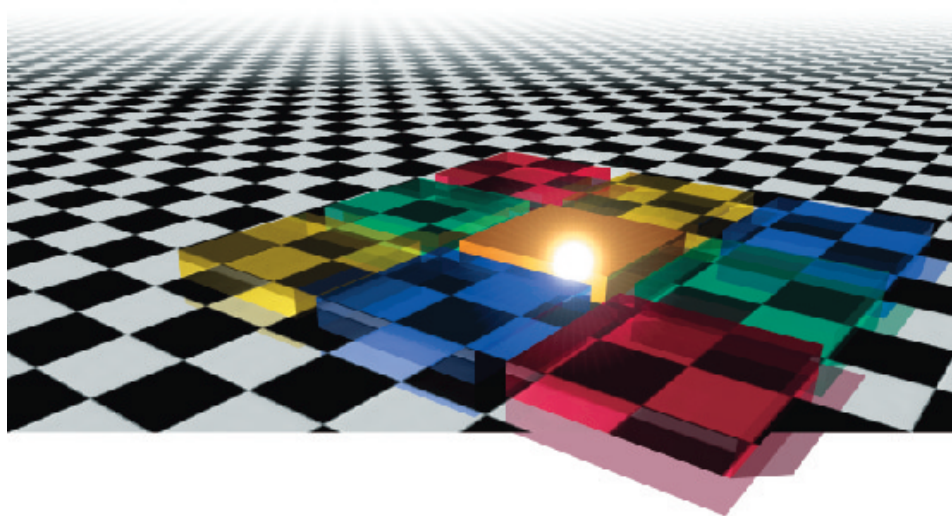
PostScript/PDF ファイルの作成

InDesign 日本語版

Macintosh/Windows 版 1.0J

この文書の内容は、

FACILIS IM Ver.3.5J および Ver.3.6 に
対応しています。



三菱製紙株式会社

お客様へのお願い

- 本書の著作権は三菱製紙株式会社が所有しています。
- 本書を無断で複製、転載することを禁止します。
- 本書は万全を期して作成されていますが、万一不明な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら、弊社または販売店までご連絡ください。
- 本書を使用者の責任においてご使用ください。使用した結果、万一トラブルおよび訴訟等が発生しましても、あらゆる直接、または間接の損害および損失につきましては一切責任を負わないものとしします。あらかじめご了承ください。
- 本書に記載されている内容は、予告なしに変更されることがあります。

商標について

- PostScript、AdobePS、InDesign はアドビシステムズ社の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

一般的な注意

PostScript ファイルは、DTP ソフトと OS、プリンタドライバの組み合わせにより、いくつかのバリエーションがあります。FACILIS IM で面付けする際には、このドキュメントをよくお読みの上、以下の点に注意して PostScript ファイルを作成してください。

● PostScript ファイルを作成する前に、ハードディスクの空き容量を十分に取っておいてください。空き容量が不足している場合は、異常にファイルサイズが小さい、内容の欠けた PostScript ファイルが作成されます。

● FACILIS IM Ver.3.0 からは、コンポジットファイルと色分解ファイルを混在して面付けできるようになりました。ただし、DTP ソフトによってはコンポジット出力だけにしか対応していないものもありますので、色分解可能なコンポジットファイルや色分解ファイルと混在させる場合には注意してください。

また、コンポジットファイルと色分解ファイルを混在させた際に正常に出力できない場合は、どちらかの形式に統一して面付けを行ってみてください。特に、面付け後の色分解に問題がある場合は、色分解ファイルに統一して面付けを行ってみてください。

● カラーの画像データを DTP ソフト上で貼り込む際には、CMYK 形式になっているものを使用することをおすすめします。RGB 形式のカラー画像データでも CMYK に変換して出力できる RIP もありますが、色みの微妙な違いが出ることもあるためです。

● 画像データを DTP ソフト上で貼り込む際には、EPS 形式や TIFF 形式などの、ひとつの画像フォーマットに統一する方が、出力トラブルを減らすことができます。

● DTP ソフト上で DCS (Desktop Color Separation) 形式のファイルを貼り込んだ場合は、色分解を行って PostScript ファイルを作成してください。コンポジットで作成すると、DCS の機能が正常に働かなくなります。

● 特色を持つデータの色分解出力では、以下の点に注意してください。

PostScript ファイル (または EPS ファイル) に、特色に関する DSC (Document Structuring Convention : 文書構造化の規約) コメント (%%DocumentCustomColors:、%%CMYKCustomColor:) が存在し、かつ B-Maker で正しい特色名が指定されていなければなりません。

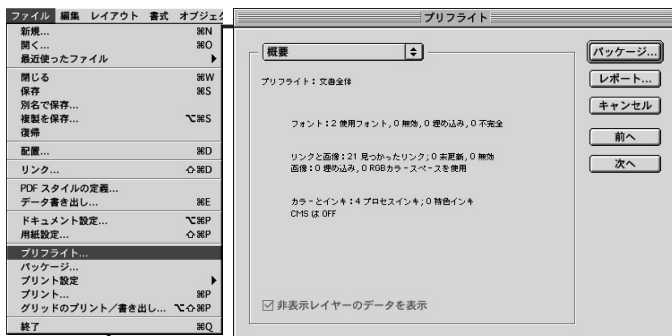
特色名には、半角小括弧、つまり ' (' と) ' は使用しないでください。また、特に Adobe Illustrator では、日本語の使用は避けてください。

● PostScript ファイルを作成する際は、出力環境に合った PPD (PostScript Printer Description) ファイルを使用してください。最新の PPD ファイルは、出力機のメーカーから入手することができます。

● RIP やプリントサーバで OPI (Open Prepress Interface) 機能を使用する場合は、各システムの取扱説明書を参照してください。

A. PS ファイルの書き出し

プリフライトを行います。



メニューから「ファイル」－「プリフライト」を選択して、プリフライトを行い、文書に問題がないか調べます。確認したら「キャンセル」をクリックして閉じます。

メニューから「ファイル」－「データ書き出し」を選択します。



書き出しダイアログが表示されますので、「形式」で「プリプレスファイル」を選択し、「名前」に書き出すファイル名を入力します。

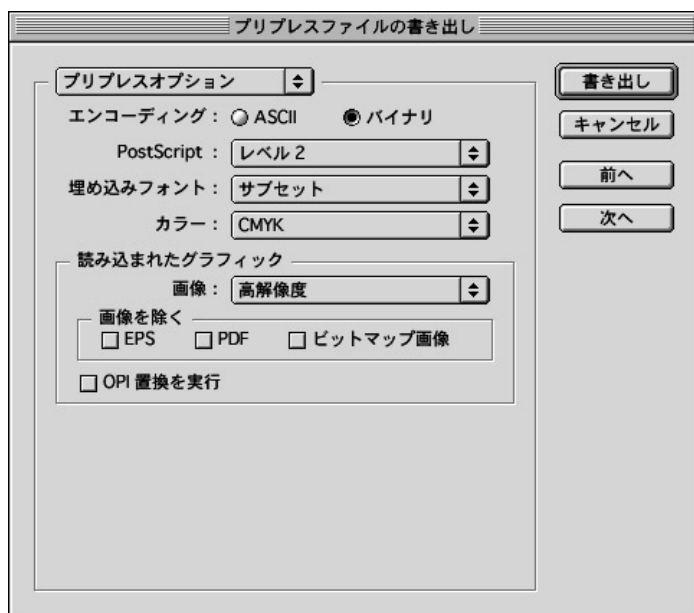
Macintosh 版 InDesign

デフォルトではファイル名に拡張子[.ps]が付加されませんが、[.ps]がないと X-Plate で認識されません。ここでのファイル名は、**[ファイル名]. ps の形**で入力してください。

Windows 版 InDesign

InDesign でのプリプレスファイルの拡張子は、デフォルトで[.sep]になっていますが、X-Plate Ver.3.6 より前のバージョンでは[.sep]を認識できませんので、**拡張子は[. ps]としてください**。拡張子を変えてもファイルの中身には影響しません。

「保存」をクリックします。



エンコーディング：

「バイナリ」を選択してください。

PostScript：

「レベル2」に設定してください。

埋め込みフォント：

出力環境に応じて設定してください。

カラー：

「CMYK」に設定してください。

「読み込まれたグラフィック」内：

出力環境に応じて設定してください。

「次へ」をクリックします。



ページ関連項目：

必要に応じて設定してください。

ブリード：

ブリード値（裁落し値）を入力してください。

△注意 ブリード値が0mmですと、FACILISで裁落しを設定しても裁落し領域の画像は出力されませんので、裁落しが必要なときは必ず設定してください。

「印刷マーク」内：

どれもチェックしないでください。

「書き出し」をクリックします。

ダイアログが閉じ、プリプレスファイルが書き出されます。

⚠ 注意

InDesign からのプリプレスファイルを X-Plate Ver.3.5、およびそれ以前のバージョンで面付けするときは、以下の点にご注意ください。

●ブリードが設定されていると、 ページがブリード分だけ右上方向にずれます。

回避方法としては、X-Plate のページセットアップで、ページデータを常にセンタリングして面付けするか、ブリード分だけマイナスオフセットを設定すれば、ページが正しく配置されます。

この問題は、**X-Plate Ver. 3.6** で解決されました。

⚠ 注意

●裁落しが必要な場合、必ずブリード値を設定してください。

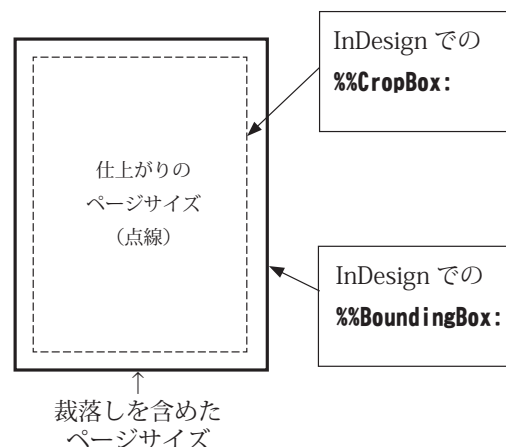
ブリード値が 0mm のままですと、FACILIS で裁落しを設定しても裁落し領域の画像は出力されません。InDesign でブリードを設定した場合、X-Plate Ver.3.5、およびそれ以前のバージョンでも、上記回避方法で正しいページ配置で面付けできます。

メモ — 面付け時ページ位置がずれる現象について

InDesign 日本語版から出力される PS ファイルの中に、新しい Document Comment **[%CropBox:]** が追加されています。

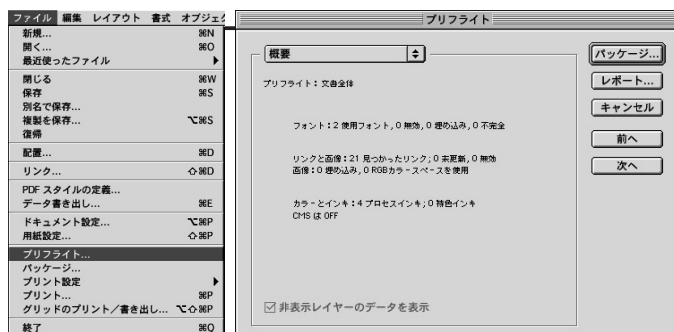
X-Plate は **[%BoundingBox:]** をもとにページサイズを求めています。InDesign 日本語版では、ページサイズは **[%CropBox:]** で表され、**[%BoundingBox:]** は、例えば裁落しを含めたページサイズを表すように変更されています。

X-Plate Ver.3.6 より前のバージョンでは、この **[%CropBox:]** には未対応です（無視します）。そのため、ページデータに裁落しの設定をしていると、裁落し領域も含めたサイズをページサイズと認識し、ページがずれるおそれがあります。



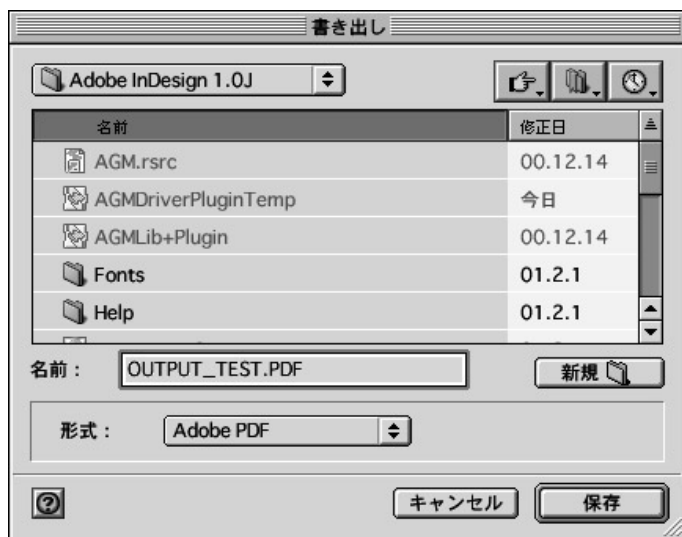
B. PDF ファイルの書き出し

プリフライトを行います。



メニューから「ファイル」－「プリフライト」を選択して、プリフライトを行い、文書に問題がないか調べます。確認したら「キャンセル」をクリックして閉じます。

メニューから「ファイル」－「データ書き出し」を選択します。



書き出しダイアログが表示されますので、「形式」で「Adobe PDF」を選択し、「名前」に書き出すファイル名を入力します。

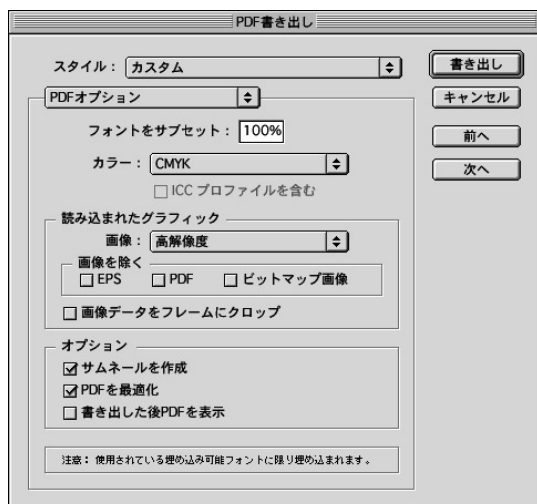
Macintosh 版 InDesign

デフォルトではファイル名に拡張子[.pdf]が付加されませんが、[.pdf]がないと X-Plate で認識されません。ここでのファイル名は、**[ファイル名]. pdf**の形で入力してください。

Windows 版 InDesign

デフォルトの**拡張子 [. pdf]**を変えないでください。

「保存」をクリックします。

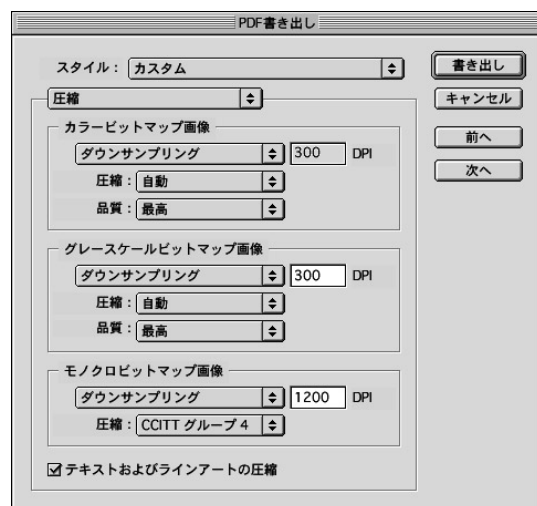


「PDF オプション」は、出力環境に応じて設定してください。

「画像データをフレームにクロップ」はチェックしないことをおすすめします。

(InDesign のマニュアル参照)

「次へ」をクリックします。



出力環境に応じて設定します。

なお、具体的な設定方法に関しては、InDesign のマニュアルに詳述されています。

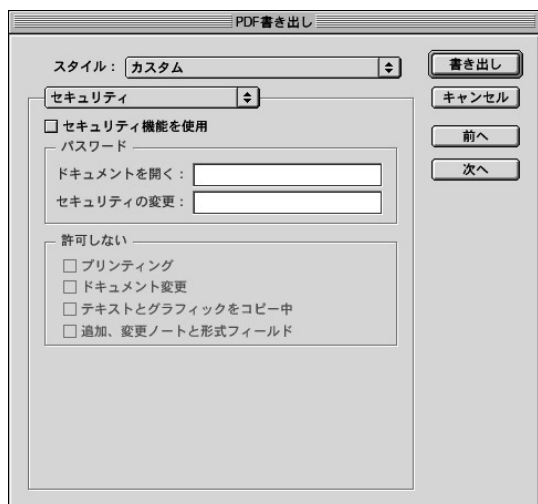
「次へ」をクリックします。



ブリードを必ず 0mm にします。

また、印刷マーク内のチェックは全てはずしてください。

「次へ」をクリックします。



セキュリティ機能は使用しないでください。
設定した場合、FACILIS で面付けすることは
できません。

「書き出し」をクリックします。

ダイアログが閉じ、PDF ファイルが書き出されます。

! 注意

PDF ファイルを書き出すときには、**ブリード値(裁落し)を必ず 0mm に設定**してください。
ブリード値を 0mm 以外に設定すると面付け時にページがずれます。
また、ブリード値を 0mm に設定した PDF ファイルでも、B-Maker で裁落しを設定すれば、裁落し領域に画像が出力されます。

もし、ブリード値が設定された PDF ファイルを面付けする場合は、

- 1) 「ブリード値を何 mm にしたのか」を覚えておく。
(PDF ファイルを開いてもブリード値はわかりません)
- 2) X-Plate で縦横ともブリード値分マイナスのオフセットを設定する。

という操作が必要です。

これは Acrobat の問題ですので、FACILIS Ver.3.x では対応しない予定です。